水戸教育事務所だより

寄り添う事務所　・　育成する事務所

第 17号
2022年11月7日

小中学校における遠隔教育実証研究事業：授業を公開（笠間市）

遠隔教育の良さと課題はなんですか

授業は
全て英語

岩間第三小学校の英語スペシャリスト教員 ⟷ 岩間中学校の生徒

令和４年10月18日（火）、笠間市立岩間中学校において、笠間市立岩間第三小学校に勤務している英語スペシャリスト教員が、小学校からオンラインで岩間中学校の生徒に遠隔授業を行いました。

今回の目標は、英語スペシャリスト教員の友達に日本の魅力を知ってもらうために、日本の魅力を英語で紹介することでした。生徒はＩＣＴ機器を使って情報を得たり、先生に質問したりしながら英語でどのように紹介するか考えていました。

遠隔授業では、全て英語で授業が行われ、生徒が英語スペシャリスト教員と生の英語に触れながら発展的な内容を学習しています。生徒はネイティブスピーカーの授業を受ける機会がより増え、英語でコミュニケーションを取る機会を増やしたり、英語を話す必然性をもたせたりすることに繋がり、英語力が向上しています。

参加者は、遠隔授業で質の高い英語の授業が受けられるすばらしさなどを実感していました。また、東京学芸大学の川﨑誠司先生から、遠隔教育の良さや課題等について話に耳を傾けました。

春夏冬話（あきない話）
「戦法(発想)の工夫」が「最大ツール」に

織田信長、誰もが知っている歴史上の人物である。彼は子供のころから「奇行」が目立ったため「天下の大うつけ」と揶揄された。所謂「しきたり」、「ならわし」を重んじる時代であったので、信長の「現状をしっかり見て、前例に囚われず合理的なやり方で対応する」という発想、行動は「奇行」のレッテルを貼られたのであろう。桶狭間の奇襲戦法で今川軍25,000人とも45,000人とも言われる軍勢を、対する織田軍はわずか2,000人とも3,000人とも言われる軍勢で撃破した。近江（滋賀県）統治においては、「楽市・楽座」の政策を行い、自由に商売をできるようして経済効果を上げた。

1549年鉄砲（「種子島」）が伝来した。「種子島」を戦国最強の武器に確実にしたのも織田信長の「斬新で、前例のない戦術」であった。1575年長篠の戦い、織田軍は、鉄砲3000挺、馬防柵を用いて、足軽隊による三段撃ち戦法で、戦国最強の「武田騎馬隊」を撃破した。「種子島」は、破壊力としては当時の武器では最強だが、単発銃のため実践には使いにくかった。信長は、3000挺という数、馬防柵、足軽隊の活用、三弾撃ちという戦法の工夫で、「種子島」の性能を最大限に活かした。「雑兵」と軽んじられていた足軽の活躍、集団戦法の変化、築城方法の変化等々「種子島」は、戦の方法を変える「最大のツール」となった。「大うつけ」信長の型にこだわらない、斬新な発想は「大きな変革」をもたらした。

話はかなり変わるが、日本の教育界は、国のＧＩＧＡスクール構想の推進により、学校教育現場において、子供たち１人１台端末機器の積極的な活用が進んでいる。ＩＣＴ機器は、子供たちのこれからの学びのための「最大ツール」となっている。「最大ツール」としなければならない。

先生方は、ＩＣＴ機器を子供たち一人一人の学びのための「最大ツール」にするべく、日夜努力されている。当然ながら、ＩＣＴ機器を活用することで、子供たちの「主体的・対話的で深い学び」が確実に実現されなければならない。「とりあえず授業でＩＣＴ」、「何が何でもＩＣＴ」では教師側の「自己満足」で終わってしまう。子供たち一人一人の学びの質の向上のためにＩＣＴ機器を活用し、「どう戦法（学習方法）」を工夫し、「どう子供たちを活躍（学力向上）」させるか重要である。

先生方一人一人の「型にとらわれない」、「斬新な」発想が、学校教育の「大きな変革」となることは間違いない。（by　S・H）